

平成16年度畑作関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成16年度畑作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成16年12月6日(月)～7日(火)、池之端文化センターにおいて開催された。

本年度供試された畑作関係除草剤は、作用性試験12剤、適用性試験28剤で、生育調節剤は作用性試験3剤、適用

性試験5剤であった。

このうち適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行った。

その結果は、次表のとおりである。

平成16年度 畑作関係除草剤・生育調節剤中央判定および使用基準

A. 除草剤

薬剤名	作物名	判定	使用基準						使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		
1. AH-01 液剤 (S)-2-アミノ-4-[ヒドロキシ(メチル)オスフィノイル]ブタン酸ナトリウム塩 10.5%	大豆	継								・効果、薬害の確認
	菜豆	継								・効果、薬害の確認
	ばれいしょ	継								・効果、薬害の確認
	ホップ	継								・効果、薬害の確認
2. AK-01 液剤 グリホサートイソプロピルアミン塩 41%	大豆	実	一年生雑草	茎葉	耕起または播種10日以前 雑草生育期(草丈30cm以下)	250～500 mL <水量 25～50L>	全土壌		1) 北海道を除く 2) 専用ノズルを使用する。	
	さとうきび (園場周縁)	実・継	一年生雑草	茎葉	雑草生育期(草丈30cm以下)	250～500 mL <水量 25～50L>	全土壌		1) 作物に飛散しないように散布する。 2) 専用ノズルを使用する。	・効果の確認
			多年生雑草(スギナを除く)			500～1000 mL <水量 25～50L>				

注) _____ は拡大される部分、..... は拡大部分が含まれることを示す

薬剤名の _____ は新たに使用基準が作成される薬剤である

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使 用 基 準						継続の内容	
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		使用上の注意
4. ANK-553 乳剤 ベンデ・イメタリン 30%	春播小麦	実・継	従来通り 一年生雑草(キ科、ツクサを除く)							・小麦1～2葉期処理の効果、 薬害の確認
5. ANK-553 細粒剤 ベンデ・イメタリン 2%	ばれいしょ	実	従来通り 一年生雑草(キ科、ツクサを除く)	土壌	植付後 雑草発生前	4～6kg	全土壌 (砂土を除く)		1) 北海道を除く 2) 碎土、覆土、整地はていねいに行い、 均一に散布する。	
	ばれいしょ (マルチ)	継								・マルチ前処理での効果、 薬害の確認
6. BAG-033 乳剤 ジメナミト・P 250g/L ベンデ・イメタリン 250g/L	とうもろこし 飼料用 とうもろこし	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	200～400 mL <水量 100L>	全土壌 (砂土を除く)		1) 北海道を除く	・低薬量での効果の 確認 ・北海道での効果、 薬害の確認
7. BAS-3510 (Na)L 液剤 ベンタゾン 40%	大豆	実・継	従来通り 一年生広葉雑草	茎葉	大豆2葉期～開花前 広葉雑草生育初期(6葉期まで)	100～150 mL <水量 100L>	全土壌		1) 気象条件によっては一過性の薬害を生じることがある。 2) 品種によっては薬害により減収する場合があるので、 使用にあたっては使用前に公的指導機関の指導を受けること。 3) アザミ科、ヒヨドリバナ科等には効果が劣る。 4) 体系処理：イネ科雑草に有効な除草剤を使用する。	・北海道における効果、 薬害の確認
	春播小麦	継								・効果、薬害の確認
9. DPX-16 顆粒水和剤 チフェンスルフロメチル 75%	こんにゃく	実	一年生広葉雑草	茎葉	広葉雑草生育初期(4葉期まで)	5～10g <水量 100L>	全土壌 (砂土を除く)		1) 体系処理：イネ科雑草に有効な既登録除草剤を使用する。	

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使 用 基 準						使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		
10. Hoe-866 液剤 グ°ルホシネート 18.5%	大豆	実・継	従来通り							
			一年生雑草	茎葉 (畦間)	生育期 雑草生育期 (草丈30cm以下)	300～500 mL <水量100～150L>	全土壌		1) 北海道を除く 2) 作物に飛散しないように散布する。	
				茎葉	播種前10～14日				1) 北海道を除く 2) 雑草の生育量に応じて薬量を増減する。 3) 播種後土壌処理剤との体系処理をする。	
					播種後出芽前 雑草生育期 (草丈30cm以下)				1) 北海道、九州を除く 2) 大豆の発芽開始後は、薬剤が直接触れると薬害が発生することがあるので注意する。	・低薬量での効果および薬害の確認 ・地域拡大
13. KUH-901 乳剤 ベンチオカブ° 50% リニエロン 7.5% ベンテ°イメタリン5%	落花生	実	一年生雑草全般	土壌	播種後雑草発生前 マルチ前、 播種前 雑草発生前	500～700 mL <水量100L>	全土壌 (砂土を除く)			
14. MON-93A 液剤 グ°リホサートアンモニウム塩 33%	大豆	継								・効果、薬害の確認
	さとうきび	継								・効果、薬害の確認

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使用基準						継続の内容	
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		使用上の注意
15. MON-96A 液剤 ク [®] リホサートアンモニウ ム塩 41%	大豆	実・ 継	一年生雑 草	茎葉 (畦間)	生育期 雑 草生育期 (草丈30cm 以下)	250～500 mL ＜水量 25～50L＞	全土壌		1) 北海道を除く 2) 作物に飛散しない ように散布する。 3) 専用ノズルを使用す る。	・ 生育期畦間処 理での年次変 動の確認
				茎葉	耕起10日以 前 雑草生 育期 (草丈 30cm以下)	250～500 mL ＜水量25 ～100L＞			1) 北海道を除く 2) 少水量散布 (25～50 L) の場合は専用ノズ ルを使用する。	
					播種後出芽 前 雑草生 育期 (草丈 30cm以下)	250～500 mL ＜水量50 ～100L＞			1) 北海道を除く 2) 大豆の発芽開始後 は、薬剤が直接触 れると薬害が発生 することがあるので注 意する。 3) 少水量散布 (50L) の 場合は専用ノズルを 使用する。	・ 出芽前処理で の散布水量と 効果の年次変 動の確認
			飼料用 とうも ろこし	実・ 継	一年生雑 草、多年 生雑草(ス キナを除 く)	茎葉	播種後出芽 前 雑草生 育期	250～500 mL ＜水量 25～50L＞	全土壌	
	ばれい しょ	継								・ 効果、薬害の 確認
	さとう きび	継								・ 効果、薬害の 確認
	そば	実・ 継	一年生雑 草、多年 生雑草(ス キナを除 く)	茎葉	耕起または 播種の7日 以前 雑草 生育期 (草 丈30cm以 下)	250～500 mL ＜水量 25～50L＞	全土壌		1) 専用ノズルを使用す る。	・ 効果、薬害の 年次変動の確 認
16. NBA-961 顆粒水和剤 タミトン 70%	てんさい (直播)	実	一年生広 葉雑草	茎葉	てんさい2 葉期以降 (雑草発生 始～摘期)	250～350 g ＜水量 100L＞	全土壌		1) シロア [®] 、ハコベ [®] は、葉齢 が進むと効果の劣 る場合がある。	

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使 用 基 準						継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域	
17. NBA-961顆 粒水和剤+フ ェンメテ [®] イ アム 乳剤 メタミロン 70% フェンメテ [®] イ アム 13%	てんさい (移植)	継							・ 効果、薬害の 確認
18. NC-360 フロアフル剤 キザ [®] ロホップ [®] エチル 7%	大豆	実 ・ 継	一年生イ ネ科雑草 (スズメノカタ ビラを除く)	茎葉	イネ科雑草 3～8葉期	200～300 mL ＜水量 100L＞	全土壌	1) 体系処理：広葉雑 草対象の既登録土 壌処理剤を使用す る。	・ 東北以南での 効果、薬害の 年次変動の確 認
19. NH-007 フロアフル剤 ピラフルフェンエチル 0.16% グリホサートイソプロ ピルアミン塩 30%	大豆	実	一年生雑 草	茎葉	耕起または 播種10日以 前 雑草生 育期（草丈 30cm以下）	400～600 mL ＜水量 100L＞	全土壌	1) 北海道を除く	
20. RSH-44 乳剤 ジフルフェニオン 3.7% トリフルラリン 37%	春播小 麦	継							・ 効果、薬害の 確認
21. RSH-44L 粒剤 ジフルフェニオン 0.15% トリフルラリン 2%	春播小 麦	継							・ 効果、薬害の 確認
22. SB-508 乳剤 ジメナミト [®] 76% (移植)	てんさい (移植)	実	一年生イ ネ科雑草	土壌	移植活着後 雑草発生前	100～150 mL ＜水量 100L＞	全土壌 (砂土を 除く)		
23. SB-508乳 剤+リニロン水 和剤 ジメナミト [®] 76% リニロン 50%	大豆	継							・ 効果、薬害の 確認
24. SL-236 (L) 乳剤 フルアジホップ P7 [®] チル 17.5%	てんさい	実 ・ 継	一年生イ ネ科雑草 (スズメノカタ ビラを除く)	茎葉	イネ科雑草 3～5葉期	75～100 mL ＜水量 25、100L＞	全土壌	1) 体系処理：広葉雑 草対象の既登録土 壌処理剤を使用す る。 2) 少水量散布 (25L) の 場合は専用ノズルを 使用する。	・ 少水量散布で の効果、薬害 年次変動の確 認

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使用基準						継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域	
26. SYJ-103 フロアブル剤 メトリオン 100g/L	とうも ろこし 飼料用 とうも ろこし	実	一年生広 葉雑草	土壌	播種後出芽 前 雑草発 生前	150～200 mL ＜水量 100L＞	全土壌 (砂土を 除く)	1) 播種後処理は北海 道を除く 2) スパリスに効果が劣 る場合がある。 3) 茎葉処理では一過 性の白化症状を生 じる場合がある。	
			一年生雑 草	茎葉	とうもろこ し2～4葉期 (雑草3葉期 まで)	100～150 mL ＜水量 100L＞			
27. YF-65L 液剤 ジクワットジプロ ト 7% バクコートジクロリ ト 5%	大豆	実	従来通り						
			一年生雑 草	茎葉 (畦間)	生育期 雑 草生育期 (草丈30cm 以下)	600～ 1000mL ＜水量 100L＞	全土壌	1) 北海道を除く 2) 作物に飛散しない ように散布する。	
				茎葉	播種後出芽 前 雑草生 育期 (草丈 20cm以下)			1) 北海道を除く 2) 大豆の発芽開始後 は、薬剤が直接触 れると薬害が発生 することがあるので で注意する。	
	菜豆	継							・ 効果、薬害の 確認
	とうも ろこし 飼料用 とうも ろこし	継							・ 効果、薬害の 確認
	さとう きび	実	一年生雑 草	茎葉 (畦間)	生育期 雑 草生育期 (草丈30cm 以下)	600～ 1000mL ＜水量 100L＞	全土壌	1) 作物に飛散しない ように散布する。	
	さとう きび (圃場 周縁)	実	一年生雑 草、多年 生雑草	茎葉	雑草生育期 (草丈30cm 以下)	1000～ 2000mL ＜水量 100L＞	全土壌	1) 作物に飛散しない ように散布する。	

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使用基準						使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		
28. ZK-122 液剤 グリホサートカリウム 塩 43%	大豆	実・継	一年生雑草	茎葉兼	耕起または 播種7日以 前 雑草生 育期 (草丈 30cm以下)	250～500 mL ＜水量 25～50L＞	全土壌		1) 北海道を除く 2) 専用ノズルを使用す る。	・効果、薬害の 年次変動の確認
					播種後出芽 前 雑草生 育期 (草丈 30cm以下)	250～500 mL ＜水量50 ～100L＞			1) 北海道を除く 2) 大豆の発芽開始後 は、薬剤が直接触 れると薬害が発生 することがあるので注 意する。 3) 少水量散布(50L)の 場合は専用ノズルを 使用する。	・低薬量、低水 量での効果の 確認
	かんし よ	継								・効果、薬害の 確認
	さとう きび (圃場 周縁)	実	一年生雑 草	茎葉兼	雑草生育期 (草丈30cm 以下)	250～500 mL ＜水量 25～50L＞	全土壌		1) 作物に飛散しない ように散布する。 2) 専用ノズルを使用す る。	
			多年生雑 草(スキナ を除く)			500～ 1000mL ＜水量 25～50L＞				
29. トリフルアリン 乳剤 トリフルアリン 44.5%	大豆 (移植)	継								・効果、薬害の 確認
	春播小麦	継								・効果、薬害の 確認
30. トリフルアリン 粒剤 トリフルアリン 2.5%	大豆 (移植)	継								・効果、薬害の 確認
	春播小麦	継								・効果、薬害の 確認
32. レナシル・PAC 顆粒水和剤 レナシル 40% PAC 30%	てんさい (移植)	実・継	一年生雑 草(スズメノ カタビラを 除く)	茎葉兼 土壌	移植活着後 雑草発生初 期	200～300 g ＜水量 100L＞	全土壌			・効果、薬害の 年次変動の確認 ・散布水量につ いて

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使 用 基 準						継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域	
33. AL-513 細粒剤 アフラール 5% リニuron 1.3%	大豆	実・ 継	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前 雑草発 生前	4～5kg	全土壌 (砂土を 除く)	1) 北海道を除く 2) 碎土、覆土、整地 はていねいに行い、 均一に散布する。 3) 透水性の大きい土 壌では、処理後の 降雨量が多いと生 育抑制が現れるこ とがある。	・ 地域拡大
34. NBA-961顆 粒水和剤+ レナシル・PAC水 和剤 メタミロン 70% レナシル 40% PAC 30%	てんさい (移植)	継							・ 効果、薬害の 確認

B. 生育調節剤

薬 剤 名	作物名	試験目的	判 定	実用化に対する 処理方法	継続の内容
1. AH-01 液剤 (S)-2-アミノ-4-[ヒドロ キシ(メチル)オキシノイル]フ タン酸ナトリウム塩 10.5%	ばれいしょ	[作用性] 茎葉枯凋促進効果(茎葉繁茂 期処理)	—		・ 薬量等について作用 性試験にて検討
		[作用性] 茎葉枯凋促進効果(茎葉黄変 期処理)	—		・ 適用性試験にて検討
2. F-8426E0 EO剤 カルフェントラソ [®] ンエチル 60g/L	ばれいしょ	[適用性] 茎葉枯凋促進効果(茎葉繁茂 期処理)	実・継	[茎葉枯凋促進効果] ・ 開花始30日後以降(茎葉 繁茂期) 200mL/10a→150~200mL/ 10a <水量100L/10a> 茎葉処理(2回処理) 北海道	・ 萌芽性の確認
		[適用性] 茎葉枯凋促進効果(茎葉黄変 期処理)	継		・ 効果の確認
		[作用性] 茎葉枯凋促進効果(茎葉黄変 期処理の散布水量拡大)	—		・ 適用性試験にて検討

B. 生育調節剤 つづき

薬 剤 名	作物名	試験目的	判 定	実用化に対する 処理方法	継続の内容
3. NGR-303 粒剤 イソプロチオン 12%	かんしょ	〔作用性・適用性〕 発根促進による品質向上(色、 サイズ)	継		・効果の確認
4. NH-611 乳剤 ビラフルフェンエチル 0.4%	ばれいしょ	〔適用性〕 茎葉枯凋促進効果(茎葉繁茂 期処理) 前年処理したいものの萌芽性確 認	実・継	従来通り 〔茎葉枯凋促進効果〕 ・開花始30日後以降(茎葉 繁茂期) 450mL/10a→250~450mL/ 10a <水量100L/10a> 茎葉処理(2回処理) 北海道	・東北以南での効果、 薬害の確認
		〔適用性〕 茎葉枯凋促進効果(茎葉繁茂 期処理) 東北以南への地域拡大			
		〔適用性〕 茎葉枯凋促進効果(茎葉黄変 期処理) 処理回数の拡大(北海道)	実・継	従来通り 〔茎葉枯凋促進効果〕 ・茎葉黄変始~黄変期 250~450mL/10a <水量100L/10a> 茎葉処理(1~2回処理) 北海道	・東北以南での効果、 薬害の確認
		〔適用性〕 茎葉枯凋促進効果(茎葉黄変 期処理) 東北以南への地域拡大			
5. S-482 顆粒水和剤 フルミオキサジン 50%	ばれいしょ	〔適用性〕 茎葉枯凋促進効果(茎葉繁茂 期処理) 前年処理したいものの萌芽性確 認	実・継	〔茎葉枯凋促進効果〕 ・開花始30日後以降(茎葉 繁茂期) 10~20g/10a→10g/10a <水量100L/10a> 茎葉処理(2回処理) 北海道 注)展着剤を加用する。	・萌芽性の確認
		〔適用性〕 茎葉枯凋促進効果(茎葉繁茂 期処理) 北海道での適用性			
		〔適用性〕 茎葉枯凋促進効果(茎葉黄 変期処理) 前年処理したいものの萌芽性確 認	実	〔茎葉枯凋促進効果〕 ・茎葉黄変始~黄変期 10~20g/10a <水量100L/10a> 茎葉処理 北海道	
6. エテホン 液剤 エテホン 10%	春播小麦	〔適用性〕 節間伸長抑制による倒伏軽減 薬量、散布水量の拡大	実・継	従来通り 〔節間伸長抑制による倒伏 軽減〕 ・出穂始期 300~500倍 <水量100L/10a> 茎葉処理	・低薬量、低散布水量 での効果、薬害の確 認